

2025 年必要病床数の推計に対する県央としての考え方（案）

機能	2014 年の現状病床	2025 年の必要病床数		現行との差引		現行からの増加率		2025 年の患者所在地における必要病床数の充足率	ガイドラインの考え方 高度急性期：医療機関所在地 急性期：患者所在地 回復期：患者所在地 慢性期：患者所在地
	現行病床機能報告	医療機関所在地	患者所在地	-	-	/	/	/	
高度急性期	578	545	768	33	190	94.3%	132.9%	71.0%	県央としての考え方（案） 人口 10 万人あたり ICU は、県平均を下回っており今後整備する必要があること、三次救急が整備されることから、 <u>患者所在地ベースが適当</u> 都道府県調整：0 人 救急患者の搬送件数は増加傾向にあり、受入れ後の対応は急性期であること、また、在宅療養者の緊急受入れも急性期が基本となることから、削減幅が少ない <u>患者所在地ベースが適当</u> 都道府県調整：30 人（東京都） 流入過多だが、急性期から回復期への患者移動を基本とする観点から、 <u>患者所在地ベースが適当</u> 都道府県調整：13 人（東京都） 地域で完結させるとの方向性から、流出患者をすべて県央で対応する <u>患者所在地ベースが適当</u> 都道府県調整：30 人（東京都）
急性期	2,734	2,096	2,367	638	367	76.7%	86.6%	88.6%	
回復期	577	1,951	1,823	1,374	1,246	338.1%	315.9%	107.0%	
慢性期	1,114	1,251	1,465	137	351	112.3%	131.5%	85.4%	
未選択	56			-					
合計	5,059	5,843	6,423	840	1,364	119.9%	119.0%	100.8%	

